

<地場産農産物の加工・販売に取り組む事例>

〇ラズベリー農園

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	北海道釧路市阿寒町 <small>くしろしあかんちよう</small> 阿寒町阿寒 <small>あかんちようあかん</small>			
協定面積 3,699.2ha	田	畑	草地 (100%)	採草放牧地
			牧草	
交付金額 5,549万円	個人配分			50%
	共同取組活動 (50%)	集落管理費		6.4%
		農業生産活動支援費		15.6%
		農用地等保全活動費		0.2%
		担い手育成費		15.4%
多面的機能増進費		12.4%		
協定参加者	農業者 89人、農業生産法人4法人 (構成員93人)			開始：平成12年度

2. 取組に至る経緯

高齢化と後継者不足による農家戸数減少から集落機能の低下および農地の耕作放棄が危惧されていたため、中山間地域等直接支払制度に取り組むこととなった。

同制度をきっかけに、様々な広告・研修活動を通じて新就農者確保に努めてきていることに加え、高齢者のより長い現役続行のため特産品の開発・地場農産物の加工販売などの生きがい支援対策にも力を入れるなど、地域の活性化を図り、集落の維持・発展に必要な取組を実施している。

3. 取組の内容

地場産農産物の加工・販売を目標として直売所の設置を計画しており、農家と非農家が一体となった特産品の開発・加工・販売を行い、地域活性化を図る。現在、特産品としてラズベリー農園を実施中であり、畑の整備・苗の植え付けなどに交付金を活用している。



【仮直売所、地場産野菜販売風景】



【ラズベリー農園風景】

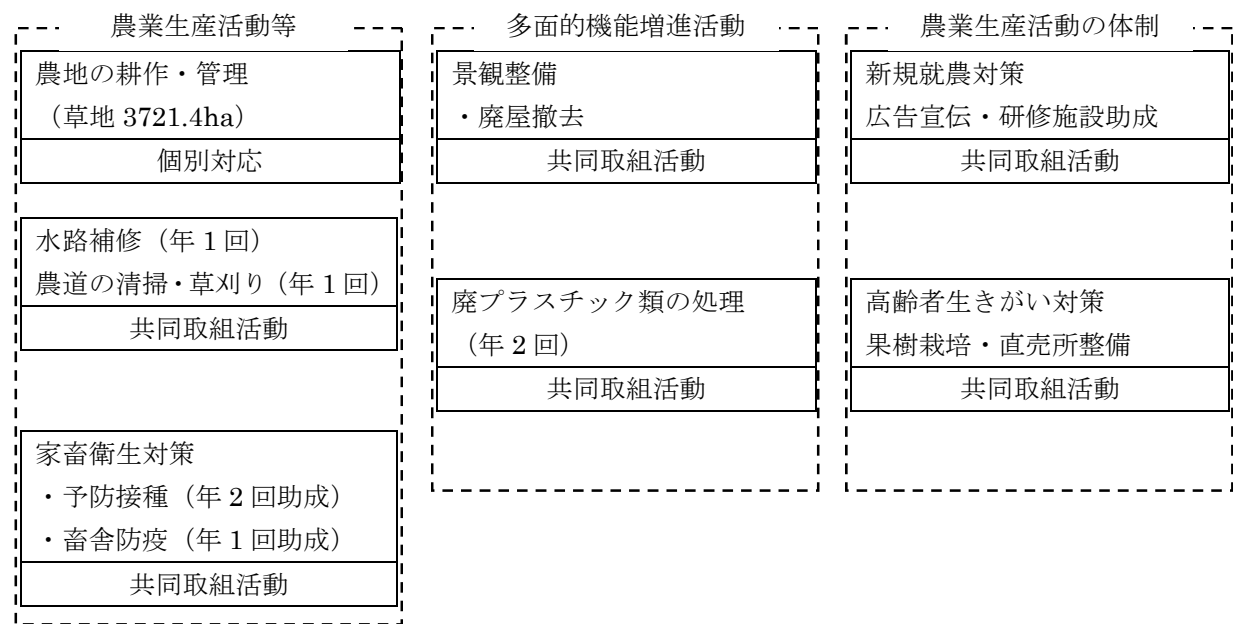
【集落の将来像】

○集落対象者を核とした農業生産活動等の体制を整備する。集落ぐるみの農業生産活動等の体制を整備する。地域の実情に即した持続的な農業生産活動等の体制を整備する。



【将来像を実現するための活動目標】

- 地場産農産物加工・販売の直売施設の建設
- 農道水路整備
- 自己施工による土壌改良を伴う草地整備
- 新規就農者確保への体制整備
- 地域の中核的リーダーとなる認定農業者の育成
- 担い手への農地集積推進



4. 今後の課題等

高齢化が進む中、耕作放棄地の発生を防止するため、新規就農者の確保が喫緊の課題となっている。当集落では研修生の就農斡旋や離農者の施設を引き継ぐ、経営移譲型の新規就農にも力をいれている。また、酪農を中心とした地域として、粗飼料の増産が必要であり、生産性の向上および高品質牧草収穫のためには、害獣駆除対策や効果的な草地整備が課題となっている。

【第 2 期対策の主な成果】

- 家畜防疫の強化 (家畜予防接種H17 : 73頭、H21 : 1251頭)
- 家畜防疫の強化 (構内舗装H17 : 0戸、H21 : 34戸)
- 農道水路清掃 (H17~年1回延べ40町内会)
- 体験学習 (H17~年1回延べ81戸受入)
- 廃プラスチック適正処理 (H17~年2回延べ238.14 t 処理)